

二十二 金婚式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
分教会長 慎んで申し上げます

真珠湾攻撃が火蓋となった大東亜戦争勃発の翌年の秋即ち昭和十七
年十月二十日 本部からお許しを頂いたばかりの神奈川の些かな

の御神前で初代会長 夫妻が仲人となり 当時

歳の 氏と 歳になる 姉との結婚式が 厳かに而

もなごやかに執り行われました

その後 お二人は厳しい戦争下仲睦まじく励まし合って 新婚早々の

月日を重ねられている中 長女 を授かり 又日本にとって未曾有

の敗戦の大混乱の中 次女 ひき続いて長男 が与えられ

何時しか月移り年去りて早くも半世紀が過ぎ 今日の茲にお二人と

も元気で芽出度く金婚式を迎えられました これ偏に親神様のこよな

く温かき大恩 又月日のやしろ ひながたの親と拝ぐ教祖の御教えの

賜物であり の歴史と共に歩まれた霊様方の御指導と この

参拝場にお座り頂く皆様方の真実のお力添えのお陰であり 誠に

感謝の念に堪えません

今は孫達もそれぐ立派に成人され幸せな高齢者夫婦としてひたすら

労わり合い慰め合い又救け合って思召に近い陽気づくめの月日を送り

迎えられておりますが 九十歳となっても尚前向きで たすけ一条の道

を貫かれた教祖を改めて身近に求め 数知れない恵みを受けている

地域社会にも酬い切れるよう 一日生涯の喜び一杯で今後の人生を

歩んで頂きたいと思っております どうか親神様倍旧の親心をもってお

二人の将来を充分にお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願

い申し上げます